

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

フィリピ信徒の手紙2：1－9

イエスが神殿の境内に入って教えておられると、祭司長や民の長老たちが近寄って来て言った。「何の権威でこのようなことをしているのか。だれがその権威を与えたのか。」

マタイによる福音書21：23

【説教要旨】

先週、九州教区・壮年会研修会で、今の困難な時代にあって、教会はどう歩めば良いかと言うことで、K牧師より話を聞きました。その中で「教会はひびき合う共同体」とあるという言葉が印象に残りました。第二聖書日課で「互いに」という言葉が出てきます。

はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれ

をかなえてくださる。 18:20 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。

マタイ 18:19～20

とイエスさまが言われるように私たち信仰者は一人で生きるのではなく、互いに影響をしあって生きる者だということです。

そして、互いにを結ぶのは私たちでなく、「互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。」とパウロがいうように「キリスト・イエスにもみられるもの」であるのです。パウロは続けて言います。

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。」

神と等しいキリストが、神と等しい身分を捨てて人間とられたということです。人となられることによってこの地上の人生の隅々まで触れ、その惨めさや悲しさを理解し、これを包むように愛を示されました。この物語を福音書から私たちは読むことが出来ます。そして、今も私たちのところまで神の身分を捨てて、世界が劇的に変化していく中で新幹線の車中で会話した若者が将来に不安を覚えるという苦しいこの時代にあっても、私たちのところに変わらずキリストは来てくださっています。

「互いに」という生きる絆を、愛をもって結んでいてくださいます。これが「キリスト・イエスにもみられるもの」です。

人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でしたとパウロは繋がります。

十字架つけられる犯罪者として死まで受けられて徹底的に人間の姿で現れ、へりくだって下さったのです。イエスさまの横には十字架につけられた二人の犯罪者がいました。イエスさまは十字架においても二人の犯罪者と共にいて、そこには、二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのであると示され、ひびかせてくださいました。

徹底的に人間の姿で現れ、へりくだって下り、十字架によって、真実の神の愛を私たちに注いでくださいました。神が徹底

的に相手、罪びとである私たちのところまで徹底的にへりくだってくださり、罪人である私たちの関係を断ち切るのではなく、私たちの苦しみとひびき合ってください、「互いに」という関係を死の最後まで結ばれたのです。私たちを包み込み私たちを根底から支えておられる神の愛を十字架という痛みをもって私たちに注がれている。ここにすべてを凌駕するキリストの権威が
るのです。「キリスト・イエスにもみられるもの」です。

キリストの権威によって、私たちがここに生かされています。私たちが徹底的な罪人と死を迎えてキリストの権威が貫かれ、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心が私たちに注がれています。

だから、パウロは「あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、」と。「幾らかでも」という言葉は慰めに満ち、イエス・キリストのように完全なものではない私たちの心へひびかせてくださいますね。「幾らか」しかありません。しかし、キリストの徹底的な愛を与えられたものは「幾らか」であってもキリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心をもって、同じ愛を抱き、心を含わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払って生きるのです。

大変に厳しい時代を私たちは日々を生きています。今週も不安と厳しい日々を過ごしていくでしょうが、ここにまで十字架の主はへりくだってきてくださっていることに信頼して、何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさいというパウロの私たちへの願いに私たちはどのようなかたちであれ、互いにひびき合い、幾らかでも応えていくものでありたいと思います。

牧師室の小窓からのぞいてみると

ヒトの死とAI（人工知能）



九州教区・壮年会でAI（人工知能）について少し触れられた。

「ヒトには死という不可逆な有限性が内在している。一方、AIにはそのような終わりは原理的に存在しない。・・・死という有限性は単なる生物的な制約ではなく、選択に重みを与え、判断を履歴として構造的な条件である。」（ヒトとAI 岡野原大輔 岩波新書）最終的には人は死ぬものであるということか。

園長・瞑想？迷走記。



静岡では当時、静岡大学の副学長の中井先生を通していろいろな方の集まりに出ることが出来ました。その一人に佐藤初女さんの集まりがあり、本当に優しい、美味しいおにぎりを食べ、心が癒されていく軽やかな気持ちになりました。佐藤初女さんの本に「おむすびの祈り」（佐藤初女著・集英社）という本で、初女さんは次のようなことを言っています。

「子どもの意志を妨げることなく、温かく成長を見守って、子どもが親を必要とするときにはすぐに手をさしのべる、それが親として求められる心構えでしょう。」と言って、「最近では、親も教師も、『見守る』ということが、なかなかできなくなっているのではないのでしょうか。世の中全体がせわしくなって、結果や答えをすぐに求めたがり、つい口の方が先にでてしまいがちです。」とも言っています。

私の保育の基本は、「こどもに寄り添う」ということを大切にしています。それは初女さんがいう「見守る」ということです。これが私は苦手です。

「結果や答えをすぐに求めたがり、つい口の方が先にでてしまいがちです」ということを保育者と共に肝に銘じて、焦らず子どもたちと日々を過ごしていきたいと思っています。

日毎の糧

聖書：主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望みます。
わたしの神よ、あなたに寄り頼みます。



詩篇25：1～2



ルターの言葉から

豊かな信頼の心を私たちに与えてくださったのですから、
私たちは「愛しまつる父よ」と呼びかけてもよいのです。

選帝侯フリードリヒ公への手紙

『ルター』徳善義和編 平凡社

詩篇25篇は、その技巧として節の始めをアルファベットで始め、詩を作る。日本のいろはカルタのように、イスラエル人が主の道を歩むことを示すように教育的詩編となった。

22節で、「イスラエルのための祈り」を加えることにより、
神殿で朗読された詩篇かもしれない。内容的には個人の嘆きの詩編である。美しく整えられた詩編である。

個人の嘆き詩編の構成は以下のようになっている。

1. 呼びかけ 2. 敵の描写 3. 敵の神の審判 4. 最後の戦いと信頼

今回は、導入の「信頼の表明（1節～3節）」からみ言葉に聞いていきます。主への信頼を表明しつつも、自分に敵する者に対して、「敵が誇ることをのしないようにしてください。」と呼びかける。苦難からの救いを願う。

「わたしの神よ、あなたに寄り頼みます。」というように私たち信仰者は、神への信頼を生きる者です。しかし、私たちは周りには信仰の危機がいつもあります。「わたしが恥を受けることのないように、敵が誇ることをのしないようにしてください。」と祈らざるおれない私の周りは主への信頼をぐらつかせる現実があります。「豊かな信頼の心を私たちに与えてくださったのですから、私たちは『愛しまつる父よ』と呼びかけてもよいのです。」というルターの声を聞きたいのです。『愛しまつる父よ』と。

祈り：豊かなあなたへの信頼の心を与えて下さった神の現実を生きる
信仰者にしてください。アーメン。

甘木通信

天の下に起こることをすべて知ろうと熱心に探究し知恵を尽くして調べた。・・・わたしは太陽の下に起こることをすべて見極めたが、見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった。



コヘレト1章13節～14節

「九州教区・壮年会総会、研修会—3人の名牧師」

神学校で同級生であったK牧師が研修会の講師であった。同級生の中で、国際基督教大学で修士を取っていたM牧師、久留米高専出身のK牧師、二人はアメリカの神学校で神学修士を取った。他にこつこつと勉強し、努力家だった自衛隊出身のO牧師がいた。3人は「天の下に起こることをすべて知ろうと熱心に探究し知恵を尽くして調べた。」というようによく勉強していた。3人と机を並べて授業を受けた思い出は少なくいが、3人の説教演習の切り込み方には感嘆していた。

K牧師が、初任地の教会で、鉄筆で書いた説教要約を今も大切に取っていて何度も読み返している。人の心を捉える感嘆させられる本を世に出した。

「わたしは太陽の下に起こることをすべて見極めたが、見よ、どれもみな空しく、風を追うようなことであった。」ということをして今回、実感した。「空しいーヘベル」、それは「ヘベルー束の間」に過ぎないと強く感じた。「『人生は束の間である』という事実を、コヘレトはじっと見つめています。それを無意味だとは、決して言いません。むしろ、そこからどう生きるか、どう生きたらよいか、知者コヘレトは徹底して考えているのです。」（「それでも生きる 旧約聖書『コヘレトの言葉』小友聡 NHK 出版」とあるように重病をおしてここに来たK牧師の話に知者コヘレトを見たような思いがした。

(甘木日記)土) 東京、甘木。よく動ける社会に感嘆。日) 聖和幼稚園の倉庫の片付け、捨てたくない牧師には困った。(笑)月) 九州教区壮年会の集い。束の間。家内の誕生日。火) 束の間だから出会いを大切にし、口喧嘩しながら秋月に小旅行。水) 祝日。休める。木) 松崎保育園、甘木教会。オリーブの苗を植える。希望へ。金) 日善幼稚園での子どもたちの引率。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）仕事の前に次男の家に寄る。私よりも立派になっていることは分かっているが、やはり子どもは子どもで、つい心配になってします。出来るだけ出張旅費を少なくするために今日は新幹線。隣に青年が座り、日本橋にある会社に勤めていること、関西学院を卒業したこと、Aに住んでいること、なんだか親近感（秋の刈穂）を感じた。これからも東京で生活することに不安があるという。土地、物価の高騰、家庭を築けるかという将来の不安。根拠もないが「大丈夫だよ」と言ってお岡山で分かれた。スイカの残金があつという間に減り、チャージする回数、金額も増えている。青年の不安も分かる気がする。若い方の抱えている不安をもっと教会は寄り添えれば思う。大西神父が若者に応え、寄り添っていく形で、YouTube配信している。こういう形も良いのではないだろうか。21時に甘木教会に着。主日の準備。日）礼拝、ドイツ、北欧の讃美歌を中心として讃美を整え、礼拝後は敬老の日、お彼岸を意識し、赤飯、おはぎをみんなで食べる。その後、聖和幼稚園の倉庫の片付け。空間が出来、出し入れが出来ようになった。車外が一番、見難い時間帯の夕刻に運転。帰宅。月）九州教区・壮年会総会、研修会。同級生だったK牧師が講師。若い時代と根本的には変わらない神学で話し。彼はいつも人を動かす言葉をもっており、その言葉へと人を導く論理をもっている。落語で言えば枕詞から、漸へと導き、漸がその人しか味わい出せない味を持っているようなものである。今回の言葉は、「教会はひびき合う共同体」。

家内の誕生日、M夫妻が食事に招待くださる。感謝。私は？ミキモト真珠と思ったが、いらないと言っていたのを思い出し、私の好きなPOLOの秋物にした。少しはおしゃれをしてほしい。一番似合うのは和服。大島紬を失くしたと言っていたのでいつか大島紬をプレゼントしたい。火）休み、家内と甘木教会に行き、かつてキリスタン文化が栄えた隣町・秋

月にバスで行く。木造の校舎に感激。落ち着いた町であった。こういう時間も少なくなる。歩き疲れる。水）家から一歩出ることなく、本を読み、YouTubeで音楽を聞きながら過ごす。木）連休後では体も気持ちも動かない。子どもも礼拝で、子どもたちに心も、体も動かないと思うので、怪我を

しないように気を付けてねと言って、お祈ります。教会も心と体が追い付かずだったのでゆっくりと慣らしていった。オーリーブの苗を買って、植える。珍しい花が街路に咲いていた。狸々草（サマーポインセチア）、南アフリカ原産のピンクノウゼンカズラである。金）幼稚園の年少、年中の鳥類センタへのお出かけの引率。引率。少々の疲れであるが子どもたちと過ごせる幸い。

